

特集

メーカートップ
インタビュ

伝導機器・搬送機器・物流機器・運搬機器

メーカートップインタビュー第2弾は「伝導・搬送・物流・運搬機器編」。メーカー各社は、新製品の拡販や新たな経営資源の開拓など、さらなる成長に向けた戦略を描く。変化する市場環境をどう捉え、どのような策を講じるのか。各社のトップに聞いた。

軽量・高把持力チャックで新市場開拓



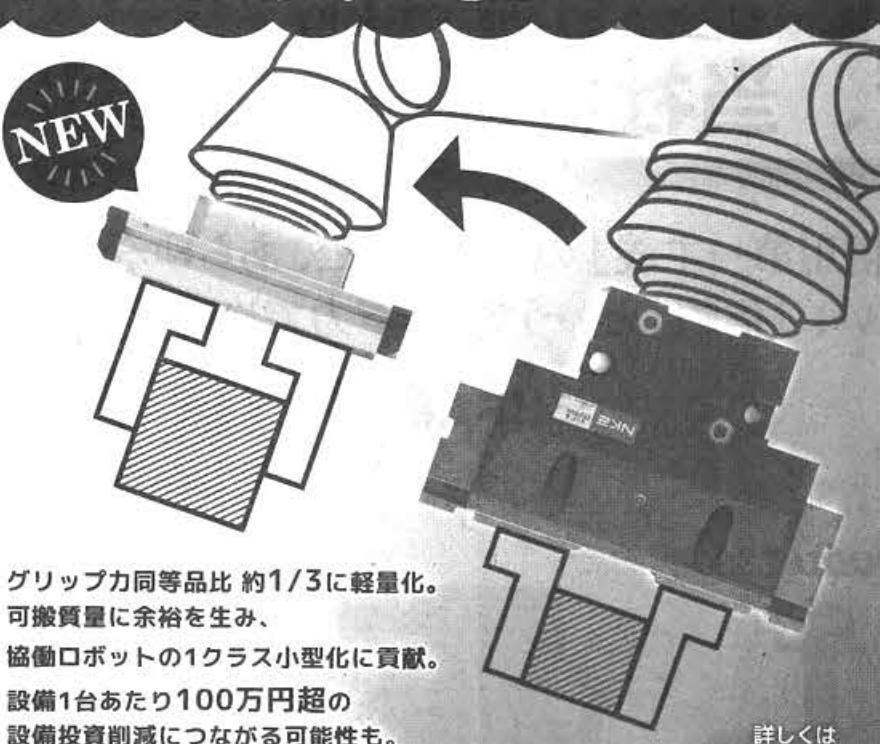
NKE
中村 道一社長

昨年を振り返って。チェンコンベアのオートテンション機構や次世代エアチャック「ウルトラフォース」など、将来を見据えた新製品を相次いで市場投入できたことは大きな成果だ。オートテンション機構は高い省メンテナンス性が評価され、各種表彰も受けた。今年はHV向け関連設備や半導体も含め市場環境は回復基調といえる。次世代エアチャックへの期待は。開発に7～8年を費やした当社の戦略製品で、販売実績はまだまだ少ないものの、潜在需要は大きい。最大の特長は、約2、3番煎じよりも創る展開するキャバン活動しながら、従来の4kgクラスの大径エアチャックに匹敵する把持力を発揮できる点だ。製品自体も軽量化を図り、より小型な搬送機械への搭載が可能で、設備の投資コスト削減につながる。導入規模によっては大幅な投資削減も可能だ。一方で、従来の概念を覆す製品だけに、ユーザが効果をイメージしにくいことが課題だ。今後はロボットメーカーと連携や実機デモ、全国機器に限らず、新たな価値を創出する製品を生み出し、独創的な製品で新たな市場を開拓していく。

1・5kgという軽量設計ながら、従来の4kgクラスの大径エアチャックに匹敵する把持力を発揮できる点だ。製品自体も軽量化を図り、より小型な搬送機械への搭載が可能で、設備の投資コスト削減につながる。導入規模によっては大幅な投資削減も可能だ。一方で、従来の概念を覆す製品だけに、ユーザが効果をイメージしにくいことが課題だ。今後はロボットメーカーと連携や実機デモ、全国機器に限らず、新たな価値を創出する製品を生み出し、独創的な製品で新たな市場を開拓していく。

2、3番煎じよりも創る

軽いチャックは
設備投資も軽くする!



グリップ力同等品比 約1/3に軽量化。
可搬質量に余裕を生み、
協働ロボットの1クラス小型化に貢献。
設備1台あたり100万円超の
設備投資削減につながる可能性も。

軽量・高把持力エアチャック

UltraForce



CHPS360-80

詳しくは
こちら▼



NKE株式会社

[旧社名(株)中村機器エンジニアリング]

0120-51-5651

URL <https://www.nke.co.jp/>